

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2024年/令和6年
第478号

11月号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



SAGA 2024 国民スポーツ大会(ソフトボール競技)

C o n t e n t s

・天皇盃 第70回全日本総合男子選手権大会……………2	・第57回日本女子リーグ第4節・予備節……………25
・国民スポーツ大会(ソフトボール競技)……………4	・第53回日本男子リーグ第4節……………29
・第4回女子大学アジアカップ……………10	・シーズン也大詰め! それぞれの想いを胸に……………33
・第19回全日本ハイシニア大会……………12	・令和6年度第7回理事会議事録……………35
・第39回全日本壮年大会……………14	・事務局だより……………38
・日本スポーツマスターズ2024 長崎大会……………16	
・第38回全日本シニア大会……………18	
・ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節~第12節……………20	

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

天皇盃 第70回全日本総合男子選手権大会

令和6年9月28日（土）～30日（月）長野県伊那市／伊那ニッパツスタジアム 他

記録提供：長野県協会記録委員会



**「初代・天皇盃」
王者に!!**



日本の頂点をかけ、熱戦・激闘を展開！

去る9月28日（土）～30日（月）の3日間、長野県伊那市を舞台に「天皇盃 第70回全日本総合男子選手権大会」が開催された。

全日本総合男子選手権も、日本男子ソフトボールのトップリーグとされる日本リーグをはじめ、実業団、クラブ、大学の各カテゴリーが「日本の頂点」を競い合う文字通り「国内最高峰の大会」と位置づけられてきたが、今年度・第70回大会から新たに「天皇盃」の冠を御下賜いただくこととなった。

「天皇盃初年度」となった今大会には、前回優勝・Honda（栃木）、準優勝・トヨタ自動車（愛知）、その優勝・準優勝チームを除いた昨年の日本リーグ上位6チームが推薦出場。そこに全国各プロリーグの予選を突破した32チームと地元1チームを加えた合計

「初代・天皇盃」の榮譽をつかむべく、大会最終日に勝ち残ったのはHonda、高知パシフィックウエーブソフトボールクラブ、平林金属株式会社ダイワアクト（佐賀）。男子ソフトボール「真の日本一」をめざして、それが最後の戦いに臨んだ。

〈準決勝〉

高知パシフィックウエーブ

7-0 Honda

両チーム無得点のまま迎えた4回表、高知はこの回先頭の2番・味元琉維のライトへのソロホームランで1点を先制。続く5回表にも1番・片岡宜久のタイムリー、2番・味元琉維のスリーランホームラン、4番・高島大揮のタイムリー等「集中打」を浴びせて一挙5点を追加。6回表には6番・伊藤皓二にソロホームランが飛び出し、得点差を7点に広げ、そのまま7-0の6回コールド勝ち！前年チャンピオンを予想外の大差で打ち破り、3年ぶりの決勝進出を決めた。

〈準決勝〉

平林金属 3-2 ダイワアクト

後攻のダイワアクトは初回、二死満塁からワールドピッチで1点を先取。このまま優位に試合を運ぶかに見えたが、平林金属も4回表に1番・浜本悳

が「初球」を鮮やかに振り抜き、ライトへ「目の覚める」ソロホームラン！1-1の同点で迎えた5回裏、ダイワアクトが一死三塁から再びワールドピッチで1点を勝ち越し、これで勝負あった……と思われた。

しかし、土壇場の7回表、平林金属は一死から3番・八角光太郎が追い込まれながらも二遊間をしぶとく破り、出塁。すかさず二盗を成功させると、続く4番・鳥山和也も一・二塁間を「執念」で抜くタイムリー!! この打球を右翼手が後逸する間に打者走者・鳥山和也も一気に生還を果たし、この回2点を奪い、3-2と試合をひっくり返した。

投げては、先発・小山玲央が常に先手を取られる嫌な流れの中であつたものの、味方打線の援護を信じた「粘りのピッチング」を展開。最終7回裏も先頭打者にバントヒットで出塁されたが、渾身の投球で後続を空振り三振、レフトフライ、空振り三振に斬って取り、熱戦に終止符。3年ぶりの決勝へ駒を進めた。

〈決勝〉

高知パシフィックウエーブ

2-5 平林金属

後攻の平林金属は初回、一死から2番・和田彩斗のレフトへのソロホーム

ランで早々と1点を先取。さらに3番・八角光太郎、4番・鳥山和也の連打で一・三塁とし、5番・井上裕太郎がレフトへキッチリと犠牲フライを打ち上げ、2点を追加。試合のペースを握った。平林金属は3回裏にも一死から2番・和田彩斗が左中間へのツーベースで出塁し、チャンスメイク。パスポールで三塁に進むと、3番・八角光太郎のライトへの犠牲フライで生還し、3点目。4番・鳥山和也も左中間最深部へソロホームランを突き刺し、もう1点を加え、1点返された直後の4回裏には相手守備の乱れに乗じて5点目を追加。着々とリードを広げた。守っては、決勝の先発投手を任せられた「期待のルーキー」景山蓮がソロホームラン二発で2点を失いはしたが、5イニングを被安打3の堂々たるピッチング。6回表から「エース」小山玲央がリリーフに立ち、2イニングを被安打1・奪三振5の貫禄の投球内容で締めくくり、ゲームセット！「7年ぶり5回目」の総合選手権優勝を果たした。



大会MVPに選ばれた平林金属・小山玲央

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで!

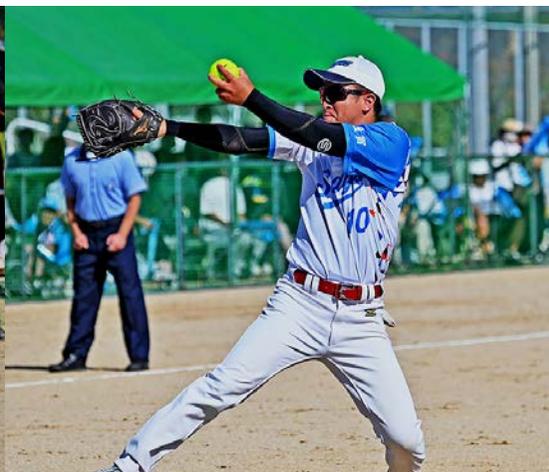


SAGA 2024 国民スポーツ大会（ソフトボール競技）

令和6年10月12日（土）～14日（月・祝）

【成年男子】佐賀県白石町 【成年女子】佐賀県江北町・小城市
【少年男子】佐賀県みやき町・上峰町 【少年女子】佐賀県太良町

記録提供：佐賀県協会記録委員会



男女4種別で 熱戦展開!!



「少年男女で優勝」を飾った鹿児島

去る10月12日(土)～14日(月・祝)の3日間、佐賀県1市5町を舞台に「SAGA 2024 国民スポーツ大会」ソフトボール競技が開催され、男女4種別で熱戦が繰り広げられた。

これまでの国民体育大会から「国民スポーツ大会」へ名称が変わり、「国スポ」としては初めての開催となった今大会。「ここから新たな歴史・時代を築いていこう!」と開催県・佐賀の方々が「一体」「一丸」となって大会運営もしくはサポートに尽力し、無事成功裏に全日程を終了することができた。

結果は、少年男女の2種別で優勝を飾った鹿児島県が天皇杯得点となる男女総合優勝。成年女子も第3位の成績を取った鹿児島県は皇后杯得点となる女子総合優勝も手にし、見事「二冠」に輝いた。

● 成年男子 ●

成年男子の部は、佐賀県白石町/白石町総合運動場(白石中央公園多目的広場)において開催され、長崎県、大府、高知県、愛知県がベスト4へ名乗りを上げた。



佐賀県白石町にて開催された成年男子

げ、2点目を追加。勝利をグッと引き寄せたかと思われた。

しかし、長崎が直後の6回表、9番・田原彰大のツーベースと相手守備の乱れで1点を返すと、さらに二死一塁となった場面で4番・メーンズ・ジェーラン秀吉がセンターへ「値千金」の逆転ツーランホームラン!この回奪った3点が結局決勝点となって、長崎が3-2の僅差で勝利。優勝に王手をかけた。

〈準決勝〉

愛知県 3-2 高知県

試合が動いたのは4回表、愛知はこの回先頭の4番・宮本海斗がレフトへ先制のソロホームラン!続く5番・杉山喜規、6番・黒岩誠亥の連続ツーベースで2点目を追加し、主導権を握ったかに見えた。

しかし、高知も5回裏に8番・中西康太からの3連打で2-2の同点に追いつき、試合はそのまま延長タイブレークへ突入。

迎えた延長8回表、愛知は二死からワイルドピッチでタイブレークの走者が三進。ここで3番・佐藤光希が左前タイムリーを放ち、3-2と1点を勝ち越し。その裏の高知の攻撃を先発・八木孔輝が無得点に抑え、接戦を勝ち切り、決勝進出を決めた。

《決勝》

愛知県 2-5 長崎県

後攻の長崎は初回、二死一塁から4番・メーンズ・ジェーラン秀吉のツーランホームランで2点を先制。

終盤6回表に愛知の3番・佐藤光希に同点ツーランを打ち返されたが、その裏、一死から3連打で満塁と攻め立て、6番・田原遼雅のサードゴロの間に勝ち越し。さらに7番・町田佳樹がセンター前タイムリー、これに相手守備の乱れも絡んで2点を加え、この回一挙3得点!そのまま5-2で勝利を取め、「5年ぶり3回目」の栄冠をつかんだ。



長崎が投打に好調な戦いぶりで、5年ぶりの優勝!

● 成年女子

成年女子の部は、佐賀県江北町・小城市／江北町立江北中学校グラウンド・牛津総合公園多目的グラウンドにおいて開催され、愛媛県、兵庫県、群馬県、鹿児島県が準決勝へ進出。



成年女子は佐賀県江北町・小城市で開催

〈準決勝〉

兵庫 0-7 愛媛

後攻の愛媛は初回、相手守備の乱れと6番・岩永優衣里のタイムリーツーベースで2点を先制。

先手を取った愛媛は2回裏にも1番・瀧川愛海、4番・本間紀帆、5番・川口茉菜のタイムリーで3点、3回裏にも本塁での走塁妨害で1点、4回裏にも7番・安川裕美のタイムリー

で1点を追加。13安打・毎回の7得点（5回コールド）で兵庫に完勝し、決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉

鹿児島 0-1 群馬

両チームの投手（鹿児島・竹原由菜、坪野三咲、群馬・勝股美咲）が一步も譲らぬ「投げ合い」を展開。0-0と互いに得点を挙げられないまま、試合は延長タイブレークに入った。



緊迫の投手戦を展開し、延長タイブレークへ

延長8回表の鹿児島への攻撃を無得点に抑えた群馬は、その裏、タイブレークの走者を3番・工藤環奈が犠打でキツチリ三塁へ進めると、続く4番・藤田倭のファーストへの当たりが内野安打となり、この間に三塁走者・須田真琴がサヨナラのホームイン！緊迫の

戦いを1-0でモノにし、優勝に王手をかけた。

〈決勝〉

愛媛 0-1 群馬

互いに無得点のまま迎えた4回裏、群馬は安打、犠打、内野安打、盗塁で一死二・三塁のチャンスを作ると、7番・遠藤愛実が三塁線を抜くタイムリー！貴重な先制点を挙げ、結局この「1点」が決勝点となった。



先発・勝股美咲の「快投」で群馬が通算24回目の優勝！

守っては、先発・勝股美咲が被安打1・13奪三振の危なげのないピッチングで愛媛打線を寄せ付けず、完封勝利。「2年ぶり24回目」の頂点へ登り詰めた。



愛媛は1点が遠く…

●少年男子●

少年男子の部は、佐賀県みやき町・上峰町／みやき町三根運動場・上峰町中央公園多目的広場において開催され、熊本県、高知県、鹿児島県、埼玉県がベスト4へ名乗りを上げた。



佐賀県みやき町・上峰町を舞台に開催された少年男子

〈準決勝〉

高知県 0ー12 熊本県

後攻の熊本は初回、二死二・三塁から5番・山本宙杜のショート頭上を越えるタイムリーで二者が生還。2点を先制。熊本は2回裏にも1番・井上将斗の豪快な満塁ホームランで一挙4点を加え、リードを広げると、4回裏には5本の長短打と相手守備の乱れで大量6点を追加し、完全に勝負あり。12ー10(5回コールド)の大勝で決勝進出を決めた。



熊本打線が爆発！高知を一蹴!!

〈準決勝〉

埼玉県 0ー4 鹿児島県

先手を取ったのは後攻の鹿児島。初回、1番・松元琉心の先頭打者ホームランでいきなり1点を先制。3回裏にも安打、犠打、四球で一死一・二塁とし、2番・松本脩巨がレフトヘスリーランホームランを叩き込み、リードを4点に広げた。守っては、清水泰地、池田太輝とつなく投手リレーで埼玉打線を僅か2安打に抑え込み、完封勝利。こちらも投手が噛み合う戦いぶりで決勝へ駒を進めた。



埼玉もチーム一丸の戦いで勝ち上がってきたが…

〈決勝〉

鹿児島県 5ー4 熊本県

両チーム「取られたら、取り返す！」見応えのある熱戦を展開。4ー3と鹿児島が1点をリードして、試合は終盤に入った。

迎えた5回表、鹿児島は二死から前の打席右中間へ本塁打を放っている3番・池田太輝が今度はセンターに「2打席連続」のソロホームラン！5ー3とリードを2点に広げる大きな一発を放った。

諦めない熊本も6回裏、先頭の7番・一森太智がこの試合2本目となるソロホームラン。再び1点差に詰め寄ったが、「あと一歩」逆転するには至らず、惜敗。競り勝った鹿児島が「10年ぶり4回目」の優勝を飾った。



鹿児島が得意の「一発攻勢」で頂点へ！

●少年女子

少年女子の部は、佐賀県太良町／太良町B&G海洋センター運動広場において開催され、青森県、鹿児島県、岐阜県、佐賀県が準決勝へ進出。



佐賀県太良町で熱戦を繰り上げた少年女子

〈準決勝〉

青森県 0-2 鹿児島県

互いに無得点のまま迎えた4回裏、鹿児島は先頭の3番・奥花菜が四球を選び、出塁。二盗、三盗と揺さぶり得

点圏へ進塁すると、5番・星隈友愛のショートへの当たりがフィルダースチヨイスとなる間に生還を果たし、1点を先制。続く5回裏にも相手守備の乱れに乗じて2点目を追加し、優位に試合を進めた。

投げては、「サウスポーのエース」勝山美桜が青森打線を僅か1安打に抑え込み、二塁をも踏ませぬ安定感抜群のピッチングを披露。2-0の完封勝利で優勝に王手をかけた。

〈準決勝〉

佐賀県 7-3 岐阜県

序盤3回を終了して3-1と岐阜が2点リード。このまま有利に試合を進めるかと思われた。



序盤リードを奪っていた岐阜だったが…

しかし、「地元の大声援」を背に戦う佐賀は終盤6回表、6番・ルーウイス梨々亜のソロホームランを含む4本の長短打を集中して一挙4点を奪い、逆転に成功。7回表にも5番・伊藤百星のソロアーチ、スクイズで決定的な2点を追加し、終わってみれば7-3の快勝！決勝へと駒を進めることになった。

〈決勝〉

鹿児島県 3-2 佐賀県

両チーム「がっぷり四つ」に組む展開で、序盤は0-0。迎えた4回裏、佐賀は3番・加減夢華が左中間を破るツーベースで出塁。犠打で三塁に進むと、5番・ルーウイス梨々亜の中前タイムリーで生還を果たし、1点を先制。



地元・佐賀が先制！しかし…

鹿児島も直後の5回表、4番・横山由芽がレフト前にヒット、左翼手がこの打球の処理を誤る間に一気に還り、同点。さらに一死後、四球、安打で二・三塁となり、8番・黒瀬笑がサード前にヒットエンドランを決めて2点目を奪い、逆転に成功した。

試合をひっくり返した鹿児島は続く6回表にも、二死三塁から5番・星隈友愛が左越タイムリーツーベースを放ち、大きな3点目を追加。このリードを今大会「4連投」（※すべて完投）のエース・勝山美桜が最終回1点差に詰め寄られながら、何とか守り抜き、3-2で接戦に勝利！「初」の栄冠を手にした。



全4試合を一人で投げ抜き、優勝投手となった勝山美桜

SAGA2024 国民スポーツ大会 ソフトボール競技

【成年男子】 [大会結果詳細はこちら](#)

A: 白石町総合運動場(白石中央公園多目的広場)
B: 白石町総合運動場(白石中央公園多目的広場)

都道府県	日程	10月12日(土)	10月13日(日)	10月14日(月)	10月13日(日)	10月12日(土)	日程	都道府県
		1回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準々決勝	1回戦	
長崎県	1		3	5	2	5	8	高知県
岡山県	2		6	3	2	2	9	岩手県
佐賀県	3		0	2	0	4	10	京都府
栃木県	4		0	5	2	4	11	福岡県
福井県	5		1	2	3	1	12	埼玉県
大阪府	6		4	6	4	4	13	愛知県
北海道	7		1					

5年ぶり3回目

【成年女子】 [大会結果詳細はこちら](#)

C: 江北町立江北中学校グラウンド
D: 牛津総合公園多目的グラウンド

都道府県	日程	10月12日(土)	10月13日(日)	10月14日(月)	10月13日(日)	10月12日(土)	日程	都道府県
		1回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準々決勝	1回戦	
愛媛県	1		7	1	1	1	8	京都府
北海道	2		0	7	1	6	9	群馬県
宮城県	3		10	0	8	4	10	広島県
兵庫県	4		8	0	2	7	11	佐賀県
福岡県	5		0	6	0	2	12	石川県
愛知県	6		0	3	4	4	13	鹿児島県
埼玉県	7		3					

2年ぶり24回目

【少年男子】 [大会結果詳細はこちら](#)

E: みやき町三根運動場
F: 上峰町中央公園多目的広場

都道府県	日程	10月12日(土)	10月13日(日)	10月14日(月)	10月13日(日)	10月12日(土)	日程	都道府県
		1回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準々決勝	1回戦	
北海道	1		0	12	4	0	8	群馬県
静岡県	2		1	14	4	9	9	鹿児島県
熊本県	3		3	4	5	0	10	佐賀県
大阪府	4		2	3	0	0	11	福島県
広島県	5		8	0	0	5	12	石川県
高知県	6		10	4	7	3	13	埼玉県
宮城県	7		0					

10年ぶり4回目

【少年女子】 [大会結果詳細はこちら](#)

G: 大良町B&G海洋センター運動広場
H: 大良町B&G海洋センター運動広場

都道府県	日程	10月12日(土)	10月13日(日)	10月14日(月)	10月13日(日)	10月12日(土)	日程	都道府県
		1回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準々決勝	1回戦	
岩手県	1		1	3	0	0	8	広島県
青森県	2		2	0	3	5	9	岐阜県
長崎県	3		0	3	2	0	10	北海道
鹿児島県	4		13	2	7	3	11	佐賀県
愛媛県	5		0	2	10	0	12	岡山県
山梨県	6		9	0	2	2	13	福井県
京都府	7		0					

初優勝

第4回女子大学アジアカップ

令和6年10月15日（火）～19日（土） 台湾・台中



© WBCS-ASIA

女子大学日本代表、連覇達成



© WBCS-ASIA

去る10月15日（火）～19日（土）、台湾・台中で「第4回女子大学アジアカップ」が開催され、女子大学日本代表が出場。見事、連覇を達成した。

大会には、ホストチームであるチャイニーズ・タイペイをはじめ、香港、インド、韓国、フィリピン、シンガポール、日本の7チームが出場。シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オープニングラウンド」を戦い、1位～7位の順位を決定。その順位に基づき、5位と6位が「5位決定戦」、3位と4位が「ブロンズメダルゲーム」（3位決定戦）、1位と2位が「ゴールドメダルゲーム」（優勝決定戦）を行う試合方式で覇が競われた。

女子大学日本代表は「オープニングラウンド」初戦のシンガポール戦に18―0で3回コールド勝ち。フィリピンに2―1で競り勝ち、香港に19―0の3回コールド、韓国に7―0の5回コールドと4連勝。チャイニーズ・タイペイとの「全勝対決」に臨んだが、延長9回タイブレークの末、0―1のサヨナラ負け。最終戦のインド戦に15―0と3回コールド勝ちを収め、「オープニングラウンド」5勝1敗の2位で「ゴールドメダルゲーム」（優勝決定戦）に進出。6戦全勝で1位のチャイニーズ・タイペイと再戦し、今度は延長8回タイブレークの末、1―0で勝利を収め、「連覇」を達成した。

第4回女子大学アジアカップ 台湾・台中で開幕!



第4回女子大学アジアカップ OPENING ROUND (予選リーグ) 日本戦試合結果



第2戦 JAPAN 2-1 PHILIPPINES



第1戦 JAPAN 18-0 SINGAPORE



第4戦 JAPAN 7-0 KOREA



第3戦 HONG KONG 0-19 JAPAN



第6戦 INDIA 0-15 JAPAN JAPAN 1-0 CHINESE TAIPEI



第5戦 JAPAN 0-1 CHINESE TAIPEI GOLD MEDAL GAME (優勝決定戦)

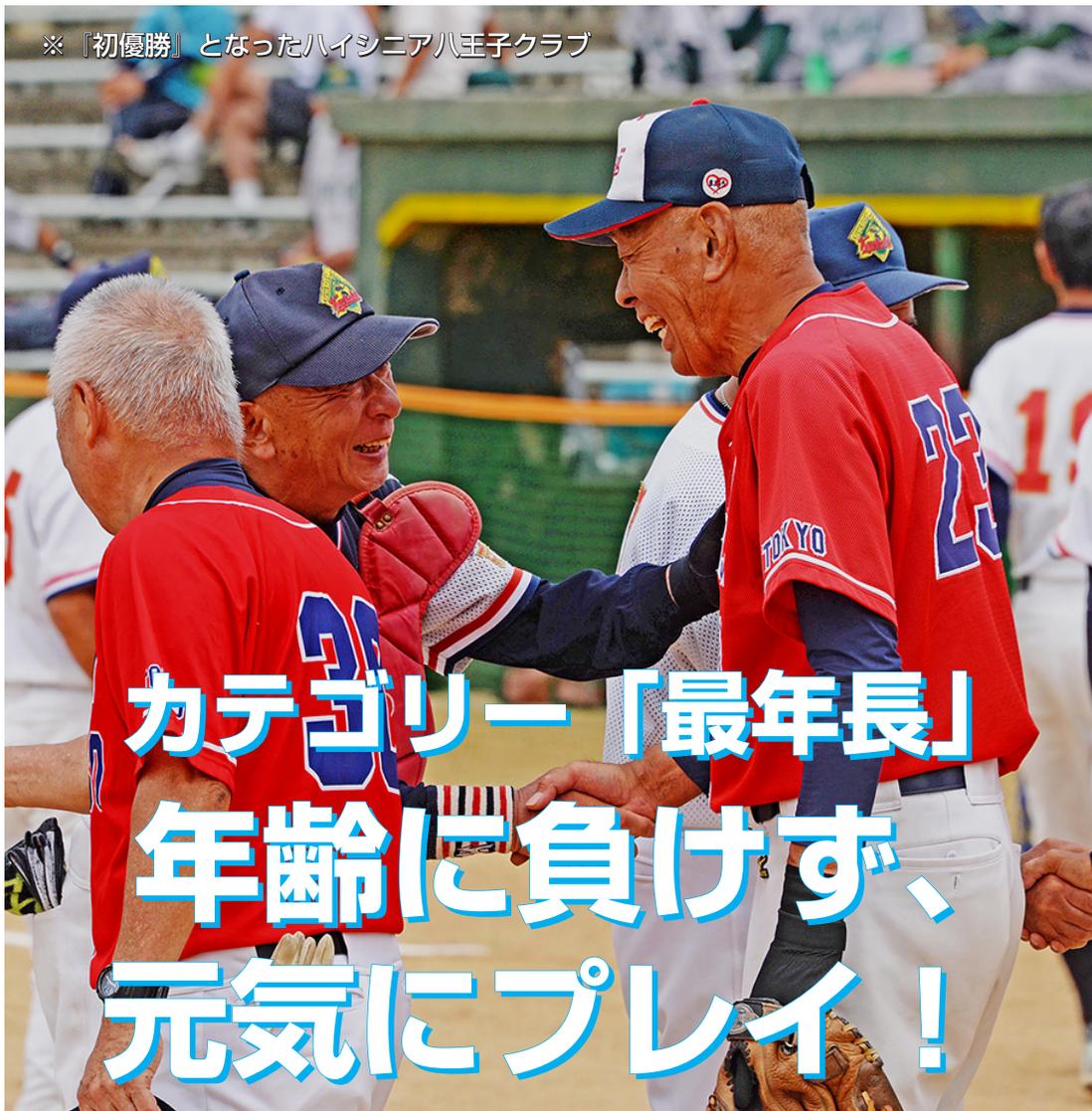


大会出場メンバー、試合スケジュール 詳細情報は[こちら](#)

●第19回全日本ハイシニア大会●

令和6年9月21日（土）～23日（月・祝）兵庫県明石市・高砂市・加古郡／17号池魚住みんな公園 他
記録提供：兵庫県協会記録委員会

※『初優勝』となったハイシニア八王子クラブ



カテゴリー「最年長」 年齢に負けず、 元気にプレイ！

去る9月21日（土）～23日（月・祝）の3日間、兵庫県明石市・高砂市・加古郡を舞台に「第19回全日本ハイシニア大会」が開催された。

大会にはカテゴリー「最年長」となる「ハイシニア」（※68歳以上の男子によって編成されたチーム）の精鋭48チームが「日本一」をめざし、集結。走攻守に、まだまだ元気！なプレイを披露していたことはもちろんであるが、試合（勝負）が終われば爽やかに「笑顔」で握手。次回また再会・再戦できることを楽しみに「互いの健闘を心からたたえ合う姿」は非常に印象的で、微笑ましくもあった。

今大会は悪天候の影響を受け、本来3日目（最終日）に予定されていた準決勝・決勝の実施が叶わず……。準々決勝に勝利した「4チーム」を「同時優勝」とする形で閉幕することになった。

〈準々決勝〉

前橋エコーズ 5-6 グローリー千葉

1点をリードされた前橋は4回表、押し出しや相手守備の乱れ等ノーヒットで一挙4点を奪い、逆転に成功。試合の流れはこれで前橋に傾いたかと思われた。

しかし、その裏、千葉もワイルドピッチと2本のタイムリーを含む6安打

を集中して4点を奪い返し、再び1点をリード。6回表に同点とされたが、その裏、安打、盗塁、5番・平野一郎のタイムリーツーベースで勝ち越し点を挙げ、そのまま時間切れとなり、6―15で僅差の戦いに勝利。「初優勝」を手にした。



接戦を制し、初優勝を飾ったグローリー千葉

〈準々決勝〉
グリーン神戸ハイシニア 11―4
静岡クラブハイシニア

初回に1点を先取された神戸は2回表、二死三塁から7番・名津井利夫の2点本塁打で逆転。続く3回表にも8本の長短打を浴びせる怒涛の攻撃で大量9点を追加し、二桁11得点！3回裏に2点、4回裏にも1点を返されは

したが、大勢に影響はなく、11―4の5回コールド勝ちで「初」の栄冠に輝いた。



グリーン神戸ハイシニアが大勝、初の栄冠に！

〈準々決勝〉
ハイシニア八王子クラブ 18―2
京都クラブハイシニア

1点を追う八王子は2回表、2つの押し出しと2番・舟久保茂のタイムリ―で3点を奪い、逆転に成功。3回表、4回表にも7番・内山政直のタイムリ―や相手守備の乱れで2点ずつ追加し、リードを広げると、1点返された後の6回表には8安打で一挙11点を奪う猛攻！最終的に18―2の大差で6回コールド勝ちを収め、「初優勝」を飾った。

〈準々決勝〉

旭球友会 1―8 レイクユニオンズ

後攻のレイクユニオンズは初回、二死二塁から4番・岡本奉公のタイムリ―で1点を先取。

4回表に同点に追いつかれたが、その裏、先制の一打を放った4番・岡本奉公が今度はライトへ「弾丸ライナー」の本塁打を突き刺す等すぐに勝ち越し。続く5回裏にも3番・喜田和男、4番・岡本奉公、7番・長根誠樹のタイムリ―で一挙5点を奪い、8―1とリードを広げ、5回得点差コールドが成立。「初」の大会制覇を果たした。



投打に実力を示したレイクユニオンズ。大会初制覇！！

大会結果詳細、全試合イニングスコアは
日本協会オフィシャルサイトで！



第39回全日本壮年大会

令和6年9月21日（土）～23日（月・祝） 東京都八王子市・武蔵村山市・青梅市・福生市／滝が原運動場 他
記録提供：東京都協会記録委員会

ケアコミュニケーション（高知）



新見城山壮年クラブ（岡山）



4チーム同時優勝



甲府コンバット（山梨）



大阪スリークロス桃次郎（大阪）

標記大会は9月21日（土）～23日（月）の3日間、東京都八王子市・武蔵村山市・青梅市・福生市の4市で開催され、全国各地から47チームが集結し熱戦を繰り広げた。

大会初日は1回戦・2回戦の31試合を行い、「地元」東京から出場した3チームのうち2チームが惜しくも初戦敗退。2日目は雨のため前日に日没サスペンデッドとなった1試合のみの実施に止まり、その他の試合は中止・翌日に順延。地元勢で唯一初戦を突破した多西クラブの3回戦進出はならなかった。最終日には3回戦・準々決勝の12試合が行われたが、本来予定されていた準決勝・決勝は実施することができず、勝ち残った新見城山壮年クラブ（岡山）、ケアコミュニケーション（高知）、大阪スリークロス桃次郎（大阪）、甲府コンバット（山梨）の「4チーム同時優勝」で閉幕することになった。

〈準々決勝〉

三河Bakabomb 10-11

新見城山壮年クラブ

1-1の同点で迎えた3回表、三河は1番・堤マルコス裕次の本塁打と6番・中野裕次郎の適時二塁打で2点を勝ち越したが、その裏、新見が3本の長打を集中し、逆転。

直後の4回表にも、三河が2番・加藤竜太、3番・加藤剛、4番・杉本智の3連続長短打等で3点を挙げ、再びリードを奪ったが、新見もその裏、3番・門俊宏の犠飛と4番・小見山敦史の2点本塁打で再度逆転。新見は1点を返され、迎えた6回裏にも4番・小見山敦史の「2打席連続」の2点本塁打で10-7と3点差をつけた。



新見の「主砲」小見山敦史が打ちまくる！

迎えた7回表、3点を追う三河は1死から8番・加藤啓太、9番・永石泰久、1番・堤マルコス裕次の3連打、二死後、3番・加藤剛にも右前適時打が飛び出し、土壇場で試合を振り出しに。しかし、その裏、新見は四球、安打、死球等で一死満塁の絶好機をつかみ、

2番・前田勝志がファースト前へ「サヨナラ」の内野安打！両チーム合わせ3本塁打・26安打が飛び交う激しい打撃戦を制し、8年ぶり2回目の栄冠をつかんだ。



三河は相手を上回る16安打を放ったが、惜敗…

〈準々決勝〉
ケアコミュニケーション 8-1

舞鶴SC

先攻のケアコミュニケーションは初回、一死から2番・麻田大裕、3番・吉田雄造、4番・時久史紘の3連続長短打で1点を先取。

3回裏に同点とされたが、直後の4回表、1番・上田城司、4番・時久史紘の適時打で一挙4点を奪い、勝ち越しに成功した。



4回表、ケアコミュニケーションが4点を勝ち越し

勢いに乗るケアコミュニケーションは続く5回表にも、8番・澤田祐也の適時二塁打と1番・上田城司の2点本塁打でダメ押しの3点を加え、そのまま8-1(5回コールド)で舞鶴SCを圧倒！初優勝に輝いた。

〈準々決勝〉
オール北九州 0-7

大阪スリークロス桃次郎

大阪打線が初回いきなり爆発！7番・浜口辰也の「グラントスラム」を

含む5安打を集中させ、一挙6点を先制し、早々と試合の大勢を決めてしまった。
大量リードした大阪は3回裏にも、二死二塁から8番・福島潤の二遊間を抜く適時打で1点を加え、7-0とし、そのまま5回コールド勝ち。今大会の最終戦を「完勝」で締めくくり、初優勝を果たした。

〈準々決勝〉
甲府コンバット 7-5

可児ホークス壮年

後攻の可児は初回、一死満塁から5番・佐藤哲也がファーストへ内野安打これに相手守備の乱れも絡み、二塁走者、一塁走者までもが一気に生還。さらに6番・上野直樹、7番・山下充、8番・峰下博行の3連打等で追加点を奪い、この回大量5点を先制した。

追いかける甲府も3回表、相手守備の乱れを足場に二死一・三塁の反撃機を作り、3番・久保圭祐がセカンド内野安打、さらに4番・雨宮正樹の右中間を破る適時二塁打、敵失で一挙4点を奪い、1点差に。5回表にも、無死一・三塁から3番・久保圭祐が一・二塁間を抜く適時打を放って同点に追いつき、試合はそのまま延長タイブレークにもつれ込むこととなった。

迎えた延長8回表、甲府はこの回先頭の5番・小林学が左中間へ適時二塁打！タイブレークの走者を生還させると、この後2つの内野ゴロで自らも還り、大きな2点を勝ち越し。その裏、可児の必死の反撃を無得点に抑え、7-5で手に汗握る接戦をモノにし、初の栄冠を手にした。



甲府が延長8回に及ぶ死闘を制し、初優勝

大会結果詳細、
全試合イニングスコアは
日本ソフトボール協会
オフィシャルHPで

日本スポーツマスターズ2024長崎大会

令和6年9月28日（土）～10月1日（火） 長崎県時津町・長与町／とぎつ海と緑の運動公園 他

記録提供：長崎県協会記録委員会



久本寺ウエンテラー
（長崎）

初優勝をつかむ



「日本一の座」をかけ、最終決戦へ！

本大会は9月28日（土）～10月1日（火）の4日間にわたり、長崎県時津町・長与町で開催され、全国から46チームが集結し、熱戦を展開。今年度から「エルダー大会」の復活に伴い、日本スポーツマスターズ大会での「女子の部」は実施されなくなり、「男子の部」のみの開催となった。

大会初日（9月28日／土）に1回戦／14試合、2日目（9月29日／日）に2回戦／16試合、3日目（9月30日／月）に3回戦・準々決勝の12試合を行い、ベスト4が出揃い、最終日（10月1日／火）を迎えた。

ベスト4には、FUKUOKA DIPPERS（福岡）、取手インディアンス（茨城）、鯨島商事スポーツクラブ（鹿児島）、久本寺ウエンテラー（長崎）がそれぞれ勝ち上がり、最終決戦に挑んだ。

《準決勝》FUKUOKA DIPPERS 6-3 取手インディアンズ

馬場剛史のスリーランでFUKUOKAが先制



先攻のFUKUOKAは初回、取手の先発・飯塚哲の立ち上がりをとらえ、1番・田上康晴のバント安打、四球で無死一・二塁とし、3番・馬場剛史がレフトスタンドに突き刺す本塁打を放ち、3点を先制。さらに連続四死球と6番・是則仁の中前適時打でもう1点を追加し、この回一挙4点を先制した。

FUKUOKAは3回表にも、この回先頭の3番・馬場剛史が左中間を破る二塁打で出塁。一死後、ワイルドピッチで三塁へ進塁し、5番・重富剛の三遊間を抜く適時打で生還。さらに続く6番・是則仁の右前安打で一死一・二塁とし、7番・馬場勇太のショートゴロがエラーを誘い、二塁走者が生還。この回2点を加え、6-0とリードを広げた。

一方、取手は3回裏、一死から1番・倉持和隆、2番・村田康介、3番・吉田貴洋、4番・北村康孝の4連続長短打でこの回3点を返したが、反撃もここまで。3回を終了したところで制限時間を迎え、6-3でFUKUOKAが勝利し、決勝進出を決めた。

《準決勝》鮫島商事スポーツクラス 2-5 久本寺ウエンテラー

後攻の久本寺は初回、一死から、2番・吉岡潤一のバント安打、3番・瀬戸口貴幸の左越二塁打で二・三塁の先制機をつかむと、4番・渡邊潤のセカンドゴロがエラーを誘い、三塁走者が生還。なお一死一・三塁の好機が続き、次打者のショートゴロで二死二・三塁となった後、6番・水野哲の一・二塁間を破る適時打で二者が還り、この回3点を先制した。

久本寺は3回裏にも、二死から四球、振り逃げで一・二塁とし、7番・山口智貴の中越適時二塁打で塁上の走者を一掃。2点を追加し、5-0とリードを広げ、決勝進出を確実なモノとした。

5点を追う鮫島商事は6回表、一死から9番・米澤和寿の左前安打と1番・鮫島賢一郎のライト線を抜く適時三塁打で1点を返し、続く2番・東條秀樹のセカンドへの当たりが内野安打となる間に三塁走者が生還。この回2点を返したが、後続が二者連続の空振り三振に倒れ、スリーアウト。6回終了時点でタイムオーバーとなり、2-5で敗れ、決勝進出を逃した。



久本寺が初回、3本の長短打等で3点を先取

《決勝》FUKUOKA DIPPERS 0-3 久本寺ウエンテラー

「九州勢対決」となった決勝は、FUKUOKA・山元智己、久本寺・北川康徳の両エースが先発。

久本寺は3回裏、1番・吉田浩実がピッチャー強襲安打で出塁すると、2球連続のワイルドピッチで三塁まで進塁。ここでFUKUOKAがピッチャーを交代。代わった尾上博一から2番・吉岡潤一が四球を選び、無死一・三塁。続く3番・瀬戸口貴幸が三遊間を抜く適時打を放ち、三塁走者がホームイン。なお、無死一・二塁のチャンスが続き、センターフライ、ピッチャーゴロで二死二・三塁となった後、6番・水野哲のセカンド内野安打の間に三塁走者が生還。この回2点を先制した。

久本寺は2点をリードしたまま、迎えた6回裏にも、この回先頭の7番・山口智貴がセカンド強襲安打で出塁。9番・月見忠義のバントが相手守備の乱れを誘い、一死二・三塁とすると、続く1番・吉田浩実のショートゴロで三塁走者が判断良くスタートを切り、間一髪ホームイン！貴重な追加点を挙げ、初優勝をグッと引き寄せた。

投げては、「エース」北川康徳、「元男子TOP日本代表」森勇紀とつなぐ「最強投手リレー」でFUKUOKA打線をわずか2安打・13三振に抑え込み、完封勝利。久本寺が「地元」長崎で初優勝を飾った。

北川康徳、森勇紀の投手リレーで完封！



大会結果詳細、全試合インニングスコアは日本ソフトボール協会オフィシャルHPで

第38回全日本シニア大会

令和6年10月12日（土）～14日（月・祝）
山梨県甲府市・笛吹市・市川三郷町／小瀬スポーツ公園 他



2年連続2回目の優勝

鳴門クラブ（徳島）

記録提供・・・山梨県協会記録委員会



大会 MVP・藤下利彰
(鳴門クラブ／徳島)

個人表彰



優秀選手・川津裕二
(K・Sクラブ／熊本)

【大会概要】

標記大会は、10月12日（土）～14日（月・祝）の3日間、山梨県甲府市・笛吹市・市川三郷町の2市1町を会場に開催。全国各都道府県から代表48チームが集い、熱戦を繰り広げた。

大会初日は、8面を使用し、1回戦16試合・2回戦16試合の計32試合を実施。2日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合、最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を実施し、予定された全日程を終了した。

大会は、「壮年」大会で「5連覇」の偉業を達成し、「実年」大会でも全国制覇この「シニア」大会でも昨年、悪天候で決勝が実施できず、「両チーム優勝」ながら「頂点」に立った鳴門クラブ（徳島）と、この「シニア」大会出場8回で優勝回数6回、2013年には「実年」と「シニア」両大会を制するという「史上初」の快挙を達成しているK・Sクラブ（熊本）の生ける「伝説」と化した両チームが順調に勝ち進み、ベスト4に進出。鳴門クラブがチャレンジレッド大分（大分）と、K・Sクラブが稲沢ゴールド（愛知）と準決勝で激突。「シニア」（59歳以上男子）カテゴリー「日本一」の座をめざし、大会最終日の「最終決戦」準決勝・決勝を戦うことになった。

《準決勝》
チャレンジレッド大分 2-9 鳴門クラブ（5回得点差コールド）

先攻のチャレンジレッド大分は初回、「生ける伝説」鳴門クラブの「エース」関原隼人の立ち上がりを読み、1番・長岡孝公のレフトへのスリーベース、2番・池田高弘のライトへのランニングホームランで2点を先制した。

これで試合はチャレンジレッド大分のペースで進むかと思われたが、「王者」鳴門クラブが慌てず騒がず反撃を開始。2回裏、四球、バント安打、犠打で一死二・三塁とすると、8番・清水貞行のタイムリーで二者が還り、あっさり同点。4回裏には5安打を集中し、打者10人を送る猛攻で大量5点を奪い、勝ち越し。5回裏にも、先頭打者が四球で出塁し、3連打等で2点を追加し、7点差となり、大会規程により5回得点差コールドゲームが成立。終わってみれば大差の勝利で鳴門クラブが決勝進出を決めた。



鳴門クラブがコールド勝ち

《準決勝》
稲沢ゴールド 4-5 K・Sクラブ（5回時間切れ）



K・Sクラブが逆転勝ち！

先攻の稲沢ゴールドは初回、3安打を集中し、先取点を挙げ、その裏、すぐに同点に追いつかれたが、2回表には1番・大島隆志の左越三塁打、2番・長田旬二の左中間二塁打で2点を勝ち越し。4回表にも一死二・三塁から4番・山本勝利のスライズで1点を追加。4-1とリードを広げ、勝負あったかと思われた。

しかし……「伝説的強豪チーム」K・Sクラブがここから反撃。4回裏、4本の安打を集中し、3点を返し、一気に同点に追いつくと、5回裏、安打、フィルダースチョイス、四球等で二死満塁と攻め立て、8番・上野光夫がレフト線に安打を放ち、三塁走者がホームイン！ 試合はすでに制限時間を超えており、K・Sクラブが5-4で稲沢ゴールドを振り切り、終始「劣勢」を強いられながらも耐え忍び、決勝へ駒を進めた。

《決勝》
K・Sクラブ 2-4 鳴門クラブ

ともに数々の「伝説」を築いてきた両チームが決勝で激突！ 昨年、ともに決勝に駒を進めながら雨で流れてしまった「日本一」の座をかけた一戦が今大会ついに「実現」した。

先手を取ったのは鳴門クラブ。2回裏、4番・福井和弘のレフト線に落ちる二塁打からチャンスをつかみ、ワイルドピッチで走者が三塁へ進み、一死後、6番・三井幸夫のレフトへのタイムリーで先制。3回裏には一死二・三塁から3番・藤下利彰の左犠飛で1点、5回裏には3連打で1点、1点を返されて迎えた6回裏には二死三塁から1番・島田新世のタイムリーで1点と小刻みに加点。終始リードを奪う試合展開で最終回を迎えた。

1-4と3点差を追うK・Sクラブは最終回、簡単に二死を取られたものの、ここから驚異的な粘りを見せ、代打・上田義輝の二遊間安打を口火に、1番・徳永誠、2番・立野雅彦の連打で満塁と攻め立て、3番・野田昌男のライト前へのタイムリーで1点を返し、完全に「押せ押せ」ムード。4番・高田稔のバットも快音を残し、痛烈なライナーがサード頭上を襲ったが、この当たりをサード・藤下利彰が「ドンピシャ」のタイミングでナイスキャッチ！ 抜けていれば「同点」あるいは「逆転」もあり得た打球をガッチリとつかみ、「日本一」の座をしっかりとつかみとった。



紙一重の差で鳴門クラブが優勝



第38回全日本シニアソフトボール大会
決勝戦ダイジェスト

2024.10.14/山梨県甲府市・小瀬スポーツ公園

決勝戦ダイジェスト動画はこちらから



大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！



東地区

日立 東地区優勝までマジック1



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節～第12節

© JD.LEAGUE

西地区



トヨタ 3年連続地区優勝

第10節

「ニトリJD.LEAGUE 2024」は第10節を開催。第7節からこの第10節までは「東地区」「西地区」のチームが対戦する「交流戦シリーズ」となり、9月28日(土)・29日(日)、栃木県足利市、群馬県高崎市、岩手県金ケ崎町、愛知県豊田市の計4会場で熱戦が繰り広げられた。

「東地区」では「第9節」終了時点で16勝4敗「単独首位」に立っていた日立が今節初戦のSGホールディングス戦を2-1で落とし、それを追うビックカメラ高崎も「宿敵」トヨタに敗れ1勝1敗。その差を詰めることができず、日立が17勝5敗で首位、ビックカメラ高崎が16勝6敗と首位争いの図式は変わらず、3位・戸田中央も1勝1敗で15勝7敗の3位と足踏み状態。今節連勝のホンダが14勝8敗とし、上位に肉薄。上位争いは激化の一途を辿っている。

以下、10勝12敗のデンソーが5位につけ、7勝15敗のNECプラットフォームズが6位、6勝16敗の大垣ミナモトが7位、今節も連敗を喫した太陽誘電が4勝18敗で最下位となっている。

「西地区」では、「王者」トヨタが「東地区」上位争いを演じる戸田中央

常に「優勝」を争う「宿敵」ビックカメラ高崎を連破し、今節連勝。通算成績21勝1敗で首位を独走している。



「東地区」上位チームを連破!
「西地区」首位を独走するトヨタ

2位は「東地区」首位の日立に3-1で競り勝ちながら、続くNECプラットフォームズ戦に0-1の完封負けを喫したSGホールディングスが通算成績15勝7敗で2位につけている。

3位には14勝8敗のシオノギがつけ、「東地区」4位のホンダと熾烈な「ワールドカード」争いを繰り広げている豊田自動織機が、そのホンダとの「直接対決」に1-2で敗れ、通算成績13勝9敗星の上でもホンダに先行され、「直接対決」に敗れたことで「ブレイクオフ」進出に「赤信号」が灯る緊急事態となった。

5位には今節も連勝で8勝14敗とした好調・タカギ北九州、6勝16敗の伊予銀行が6位、今節連敗を喫した日本精工に、今節1勝1敗の東海理化が5勝17敗で「同率7位」に並びかける展開となっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節「交流戦シリーズ」足利ラウンド 栃木県足利市・ジェットブラックフラワーズS			
月日	試合結果		
9月28日(土)	第1試合	大垣ミナモト	1-2 豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	ホンダ リヴェルタ	6-2 東海理化 チェリーブロッサムズ
9月29日(日)	第1試合	大垣ミナモト	1-6 東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	ホンダ リヴェルタ	2-1 豊田自動織機 シャイニングベガ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節「交流戦シリーズ」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム			
月日	試合結果		
9月28日(土)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ	4-5 デンソー ブライトペガサス
	第2試合	太陽誘電 ソルフィーユ	1-3 タカギ北九州 ウォーターウェーブ
9月29日(日)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	4-3 デンソー ブライトペガサス
	第2試合	太陽誘電 ソルフィーユ	2-5 伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節「交流戦シリーズ」金ケ崎ラウンド 岩手県金ケ崎町・しんきん森山スタジアム			
月日	試合結果		
9月28日(土)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	3-2 日立 サンディーバ
	第2試合	シオノギ レインボーストックス兵庫	1-0 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
9月29日(日)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	0-1 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合	シオノギ レインボーストックス兵庫	1-8 日立 サンディーバ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第10節「交流戦シリーズ」豊田ラウンド 愛知県豊田市・豊田市運動公園野球場			
月日	試合結果		
9月28日(土)	第1試合	日本精工 ブレイブアリーズ	1-6 ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	4-2 戸田中央 メディックス埼玉
9月29日(日)	第1試合	日本精工 ブレイブアリーズ	2-7 戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	3-1 ビックカメラ高崎 ビークイーン

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで

<https://jdleague.jp/>

第11節

「ニトリ J.D. LEAGUE 2024」は第11節を開催。第7節から第10節まで行われていた「交流戦シリーズ」を終了し、この「第11節」から再び「東地区」「西地区」に分かれての「地区シリーズ」の戦いとなった。



ビックカメラ高崎・上野由岐子が先登登板

「東地区」では、第10節を終え、17勝5敗で首位を走る日立と16勝6敗でそれを追う2位・ビックカメラ高崎との「直接対決」「首位攻防戦」が繰り広げられ、ビックカメラ高崎が「レジェンド」上野由岐子を「J.D. LEAGUE」となってからは「初」、旧・日本女子リーグ1部の時代に遡っても2020年の決勝トーナメント・決勝以来となる「先発」に起用し、最終回までリードを奪いながら森山遥菜に「まさか……」の一発を浴び、延長9回決着つかず1-1の引き分け。日立が18勝5敗1分で首位の座を死守。ビックカメラ高崎は「レジェンド」の先発起用もむなしく17勝6敗1分の2位と順

位は変わらず……。3位の戸田中央が今節連勝で17勝7敗と星を伸ばし、4位・ホンダも後半戦再開後5勝1敗と絶好調！ 15勝9敗とし、「ワイルドカード」獲得へ大きく前進している。以下、11勝14敗のデンソーが5位、8勝16敗のNECプラットフォームズが6位、7勝18敗の大垣ミナモが7位、4勝20敗の太陽誘電が最下位の順で続いている。

「西地区」では首位を独走するトヨタが初戦のSGホールディングス戦を1-2で落とし続けたものの、続くタカギ北九州戦に3-1で快勝し、3年連続となる「西地区」優勝を決めた。

2位は首位・トヨタを破り、今節連勝を飾ったSGホールディングス。17勝7敗で2位につけ、上位争いの「ライバル」豊田自動織機との「直接対決」に2-1の1点差で勝利を収めたシオノギが16勝8敗で3位をキープしている。一方、シオノギとの「直接対決」に敗れた豊田自動織機は14勝11敗。「プレーオフ」進出が遠のく手痛い連敗を喫し、上位との差は広がるばかり……。以下、今節連勝の伊予銀行、「ホーム」で無念の連敗と「明暗」を分けたタカギ北九州が8勝16敗の「同率5位」に並び、6勝18敗の東海理化が7位、5勝20敗の日本精工が最下位の順となっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第11節「東地区」多摩ラウンド 東京都多摩市・多摩市一本杉公園野球場

月日	試合結果
10月5日(土)	第1試合 日立 サンディーバ NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合 太陽誘電 ソルフィーユ ビックカメラ高崎 ビークイーン
10月6日(日)	第1試合 ビックカメラ高崎 ビークイーン 1-1 日立 サンディーバ
	第2試合 太陽誘電 ソルフィーユ 1-3 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
10月7日(月)	第1試合 日立 サンディーバ 4-3 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合 太陽誘電 ソルフィーユ 2-4 ビックカメラ高崎 ビークイーン

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第11節「東地区」大垣ラウンド 岐阜県大垣市・大垣市北公園野球場

月日	試合結果
10月4日(金)	大垣 ミナモ 2-4 デンソー プライツベガス
10月5日(土)	第1試合 デンソー プライツベガス 0-6 ホンダ リヴェルタ
	第2試合 大垣 ミナモ 4-12 戸田中央 メディックス埼玉
10月6日(日)	第1試合 戸田中央 メディックス埼玉 9-0 デンソー プライツベガス
	第2試合 大垣 ミナモ 6-4 ホンダ リヴェルタ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第11節「西地区」甲賀ラウンド 滋賀県甲賀市・甲賀市民スタジアム

月日	試合結果
10月4日(金)	日本精工 ブレイブアリーズ 1-6 豊田自動織機 シャイニングベガ
10月5日(土)	第1試合 豊田自動織機 シャイニングベガ 0-1 伊予銀行 ヴェールズ
	第2試合 日本精工 ブレイブアリーズ 5-7 シオノギ レインボーストークス兵庫
10月6日(日)	第1試合 豊田自動織機 シャイニングベガ 1-2 シオノギ レインボーストークス兵庫
	第2試合 日本精工 ブレイブアリーズ 0-1 伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第11節「西地区」北九州ラウンド 福岡県北九州市・北九州市民球場

月日	試合結果
10月5日(土)	第1試合 SGホールディングス ギャラクシースターズ 2-1 トヨタ レッドテリアーズ
	第2試合 タカギ北九州 ウォーターウェーブ 0-1 東海理化 チェリーブロッサムズ
10月6日(日)	第1試合 東海理化 チェリーブロッサムズ 1-8 SGホールディングス ギャラクシースターズ
	第2試合 タカギ北九州 ウォーターウェーブ 1-3 トヨタ レッドテリアーズ

第12節

「ニトリ J.D. LEAGUE 2024」は第12節を開催。すでに3年連続で「西地区」優勝を決めているトヨタに続き、「プレーオフ」進出の6チームが決定。レギュラーシーズン最終節となる第13節を待たずにその顔ぶれが出揃った。

「東地区」では単独首位に立つ日立が今節3連勝。通算成績21勝5敗1分とし、初の「東地区」優勝へ「マジック1」(残り2試合で1勝でもすれば「東地区」優勝が決定する)とした。これを追うビックカメラ高崎は今節2勝1敗で19勝7敗1分の2位。3年連続の「東地区」優勝は風前の灯となつてしまった。

また、18勝8敗の戸田中央、17勝9敗のホンダもまだ「東地区」での最終的な順位は確定していないものの、「ワイルドカード」以上(4位以上)での「プレーオフ」進出が決まった。

以下、12勝15敗のデンソーが5位、8勝19敗のNECが6位、7勝20敗の大垣ミナモトが7位、5勝22敗の太陽誘電が最下位の順となっている。

「西地区」はすでに3年連続の「地区優勝」を決めているトヨタが今節1勝1敗で通算成績23勝3敗。優勝決定までのペースに比べるとややペースを

落としている感はあるが、余裕をもって「ポストシーズン」「ダイヤモンドシリーズ」での「連覇」を見据え、しっかりと調整を進めているとも考えられる。

2位は今節3連勝で19勝8敗としたシオノギ、3位のSGホールディングスは今節1勝1敗ながら通算成績を18勝8敗とし、「プレーオフ」進出が決定。4位で追っていた豊田自動織機は今節1勝1敗で通算成績15勝12敗となり、最終節となる第13節で残り試合を「全勝」しても上位3チームに届かず、順位逆転の可能性が消滅。3年連続の「プレーオフ」進出を逃すことになった。

以下、9勝18敗の伊予銀行が5位、8勝18敗のタカギ北九州が6位、7勝20敗の日本精工が7位、6勝20敗の東海理化が最下位となっている。



初の「プレーオフ」進出を決めたシオノギ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第12節「東地区」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム				
月日	試合結果			
10月18日(金)		ビックカメラ高崎	ピークイーン	3-0 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
10月19日(土)	第1試合	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ	2-8 ホンダ リヴェルタ
	第2試合	ビックカメラ高崎	ピークイーン	1-0 戸田中央 メディックス埼玉
10月20日(日)	第1試合	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ	0-3 戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	ビックカメラ高崎	ピークイーン	0-3 ホンダ リヴェルタ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第12節「東地区」秦野ラウンド 神奈川県秦野市・中栄信金スタジアム秦野				
月日	試合結果			
10月18日(金)		日立	サンディーバ	2-0 太陽誘電 ソルフィュー
10月19日(土)	第1試合	太陽誘電	ソルフィュー	1-5 デンソー プライムペガサス
	第2試合	日立	サンディーバ	14-5 大垣ミナモト
10月20日(日)	第1試合	太陽誘電	ソルフィュー	3-1 大垣ミナモト
	第2試合	日立	サンディーバ	4-0 デンソー プライムペガサス

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第12節「西地区」刈谷ラウンド 愛知県刈谷市・刈谷球場				
月日	試合結果			
10月19日(土)	第1試合	日本精工	ブレイブアリアーズ	2-1 SGホールディングス ギャラクシースターズ
	第2試合	豊田自動織機	シャイニングベガ	8-5 タカギ北九州 ウォーターウェーブ
10月20日(日)	第1試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	5-7 日本精工 ブレイブアリアーズ
	第2試合	豊田自動織機	シャイニングベガ	0-5 SGホールディングス ギャラクシースターズ

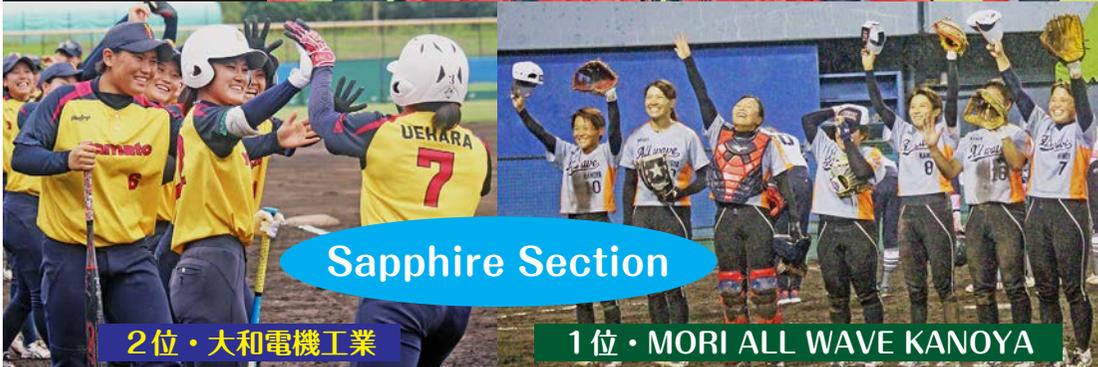
ニトリ JD.LEAGUE 2024 第12節「西地区」松山ラウンド 愛媛県松山市・マドンナスタジアム				
月日	試合結果			
10月18日(金)		伊予銀行	ヴェールズ	1-5 シオノギ レインボーストックス兵庫
10月19日(土)	第1試合	シオノギ	レインボーストックス兵庫	4-3 トヨタ レッドテリアーズ
	第2試合	伊予銀行	ヴェールズ	雨天順延 東海理化 チェリーブロッサムズ
10月20日(日)	第1試合	シオノギ	レインボーストックス兵庫	10-6 東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	伊予銀行	ヴェールズ	2-4 トヨタ レッドテリアーズ
10月21日(月)		伊予銀行	ヴェールズ	3-2 東海理化 チェリーブロッサムズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024			
東地区 第12節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	日立 サンディーバ	21勝5敗1分	0.808
2位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	19勝7敗1分	0.731
3位	戸田中央 メディックス 埼玉	18勝8敗	0.692
4位	ホンダ リヴェルタ	17勝9敗	0.654
5位	デンソー ブライトペガサス	12勝15敗	0.444
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	8勝19敗	0.296
7位	大垣 ミナモ	7勝20敗	0.259
8位	太陽誘電 ソルフィーユ	5勝22敗	0.185
西地区 第12節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	トヨタ レッドテリアーズ	23勝3敗	0.885
2位	シオノギ レインボーストックス兵庫	19勝8敗	0.704
3位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	18勝8敗	0.692
4位	豊田自動織機 シャイニングベガ	15勝12敗	0.556
5位	伊予銀行 ヴェールズ	9勝18敗	0.333
6位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	8勝18敗	0.308
7位	日本精工 ブレイブベアリーズ	7勝20敗	0.259
8位	東海理化 チェリーブロッサムズ	6勝20敗	0.231



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第57回
日本女子ソフトボールリーグ
第4節・予備節



【第4節】 令和6年9月27日(金)~30日(月)

- プラチナセッション：岡山県新見市・憩いとふれあいの公園野球場
- サファイアセッション：三重県熊野市・山崎運動公園くまのスタジアム

※サファイアセッションが悪天候のため1日順延

【予備節】 令和6年10月16日(水)

静岡県伊豆市・天城ふるさと広場野球場

☆プラチナセッション☆

1位・VONDS市原 2位・厚木SC
「順位決定節」Aブロック進出!

★サファイアセッション★

1位・MORI ALL WAVE KANOYA
2位・大和電機工業「最終決戦」へ

●第4節・プラチナセクション概要●

第4節「プラチナセクション」は、9月27日(金)〜29日(日)の3日間、岡山県新見市・憩いとふれあいの公園野球場で開催され、激しい順位争いが繰り広げられた。

結果は「第3節」終了時点で「同率首位」に並んでいたVONDS市原が鮮やかに3連勝。「第3節」台風10号の影響で中止・順延となった1試合を残しているものの、通算成績10勝2敗とし、「プラチナセクション」1位が確定。日本リーグ「優勝」を争う「順位決定節」Aブロック進出を決めた。

一方、2位以下は大混戦。「第3節」終了時点で「同率首位」に並んでいた厚木SCは初戦のYKK戦を4-15のサヨナラで落とし、続く静甲戦は1-0の完封で勝利を収めたものの、最終戦の平林金属戦も「まさか……」のサヨナラスリランを浴び、3-5で落とす衝撃の結末。通算成績8勝4敗で「第4節」を終え、「予備節」でのVONDS市原戦が「プラチナセクション」2位の座を巡る「重要な一戦」となった。

7勝3敗で3位につけ、この「ホーム」での「第4節」を迎えた平林金属は初戦の静甲戦を1-4、続くVONDS市原戦を1-6で落とし、手痛い連敗。最終戦の厚木SCとの「直接対決」

も最終回までリードを奪われる劣勢を強いられながら「主砲」植村華の起死回生の逆転スリランで劇的なサヨナラ! 5-3で勝利を収め、通算成績8勝5敗でレギュラーシーズンを終了し、「予備節」での試合結果次第で順位逆転、「順位決定節」Aブロック進出に望みをつないだ。

また、2位・3位の両チームが1勝2敗と今節負け越したことで、この「第4節」を2勝1敗と勝ち越し、通算成績7勝5敗としたYKKにも「逆転」での2位浮上、「順位決定節」Aブロック進出の可能性が出てきた。

「予備節」でのVONDS市原対厚木SC戦で厚木SCが勝てば「文句なし」で2位が確定。この試合に厚木SCが敗れ、最終戦の静甲対YKK戦でYKKが勝つと、厚木SC、平林金属、YKKの3チームが8勝5敗の「同率」で並び、「同率」で並ぶチーム同士の「直接対決」での勝敗、その「直接対決」における「得失点差」で上回るYKKの2位が確定。厚木SC、YKKともに敗れた場合は、厚木SCと平林金属が「同率」で並び、その場合は「直接対決」の勝敗で上回る平林金属の2位が確定するという非常に複雑な状況で「予備節」の残り2試合を迎えることになった。

●第4節・サファイアセクション概要●

第4節「サファイアセクション」は、初日(9月27日/金)の第1試合が雨天順延となり、30日(月)の予備日までの4日間の開催となったが、何とか予定された全日程を消化し、レギュラーシーズンを終了した。

結果は、「第3節」終了時点で7勝3敗の「同率首位」に並んでいたMORIALL WAVE KANOYAが3連勝で駆け抜け、通算成績10勝3敗とし、「サファイアセクション」1位で「順位決定節」Aブロック進出を決めた。



MORI ALL WAVW KANOYA が第4節で3連勝。1位確定

2位は9勝4敗の大和電機工業。初戦が雨で流れ、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が今節初戦となり、14-4で大勝。MORIALL WAVE KANOYAとの「首位決戦」に臨んだが1-7で大敗。予備日の最終戦、Citrine Ichinomiyaとの一戦を落とすと「同率」に並ばれ、しかも

得失点差次第では3位に転落するという「危機」に見舞われたが、8-5で打ち勝ち、最終戦の勝利で「順位決定節」Aブロック進出を辛うじて決めた。

3位は7勝6敗のCitrine Ichinomiya。最後まで「順位決定節」Aブロック進出の可能性を残していたのだが、「勝負どころ」の今節1勝2敗と星を伸ばせず、3位に甘んじた。

4位は同じく7勝6敗の花王コスメ小田原。今シーズンは「第64回全日本実業団女子選手権大会」で優勝を飾る等、「サファイアセクション」防衛率1位(0・66)の「エース」栗原ななみを中心に「躍進のシーズン」となったが、リーグでは優勝争いに絡めず……「同率」で並ぶCitrine Ichinomiyaとの「直接対決」での得失点差の争いの結果、4位となった。

5位は5勝8敗の小泉病院。「第3節」の不戦敗(2敗)が響き、5位に終わる結果となった。

最下位はルネス紅葉スポーツ柔整専門学校。今シーズンもレギュラーシーズン勝ち星なし(0勝13敗)に終わった。後半戦(第3節・第4節)は前半戦から一転、好ゲームを演じることも多かったが……「順位決定節」での「初勝利」を期待しよう!

●予備節・プラチナセクション概要●

「プラチナセクション」は、8月31日（土）・9月1日（日）の両日、静岡県富士宮市・富士山スタジアムで開催される予定であったが、「台風10号」の影響で初日、2日目と2日連続で中止・順延を余儀なくされ、予備日（9月2日/月）のみ、何とか試合を行い、2試合がこの「予備節」に順延された。

「予備節」は10月16日（水）、静岡県伊豆市・天城ふるさと広場野球場で開催され、VONDS市原対厚木SC、静甲対YKKの2試合が実施された。

第1試合、VONDS市原対厚木SCの一戦は、VONDS市原はすでに「プラチナセクション」1位での「順位決定節」Aブロック進出を決めているが、厚木SCは2位につけているとはいえ、この試合を落とすと「順位決定節」Aブロック進出の可能性がなくなる……という「大一番」となった。

この試合「勝つしかない」厚木SCは、今シーズン久々に「選手登録」したとはいえ、ここまで1試合も出場していなかった「コーチ」和田美樹を2番・DPでスタメン起用。この選手起用がズバリと当たり、初回の第1打席でいきなりの先制ソロホームラン！この「一発」で勢いに乗った厚木SCが2-0の完封で勝利を収め、通算成績9勝4敗とし、

続く静甲対YKK戦は静甲が「キャプテン」半田由佳の満塁ホームランを含む2安打・6打点の活躍で7-3で勝利を収め、レギュラー1シーズンの全日程を終了。10勝3敗のVONDS市原が1位、9勝4敗の厚木SCが2位、8勝5敗の平林金属が3位、7勝6敗のYKKが4位、5勝8敗の静甲が5位、1勝12敗のペヤングが最下位となった。



厚木SCが最終戦に勝利し、2位が確定

第57回日本女子ソフトボールリーグ 第4節「プラチナセクション」			
月日	試合結果		
9月27日(金)	第1試合	VONDS市原	1-0 ペヤング
	第2試合	YKK	5-4 厚木SC
	第3試合	静甲	4-1 平林金属 Peachblossoms
9月28日(土)	第1試合	ペヤング	0-4 YKK
	第2試合	平林金属 Peachblossoms	1-6 VONDS市原
	第3試合	厚木SC	1-0 静甲
9月29日(日)	第1試合	YKK	0-1 VONDS市原
	第2試合	ペヤング	3-1 静甲
	第3試合	平林金属 Peachblossoms	5-3 厚木SC

第57回日本女子ソフトボールリーグ 第4節「サファイアセクション」			
月日	試合結果		
9月27日(金)	第1試合	大和電機工業	雨天順延 Citrine Ichinomiya
	第2試合	小泉病院 Blue Arrows	0-5 花王コスメ小田原 フェニックス
	第3試合	MORI ALL WAVE KANOYA	3-0 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
9月28日(土)	第1試合	Citrine Ichinomiya	5-2 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	大和電機工業	14-4 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	1-3 MORI ALL WAVE KANOYA
9月29日(日)	第1試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	4-5 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	MORI ALL WAVE KANOYA	7-1 大和電機工業
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	6-5 Citrine Ichinomiya
9月30日(月)	第1試合	大和電機工業	8-5 Citrine Ichinomiya

第57回日本女子ソフトボールリーグ 予備節「プラチナセクション」			
月日	試合結果		
10月16日(水)	第1試合	VONDS市原	0-2 厚木SC
	第2試合	静甲	7-3 YKK

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第57回日本女子ソフトボールリーグ			
プラチナセクション 第4節 終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	VONDS市原	10勝3敗	0.769
2位	厚木SC	9勝4敗	0.692
3位	平林金属 Peachblossoms	8勝5敗	0.615
4位	YKK	7勝6敗	0.538
5位	静 甲	5勝8敗	0.385
6位	ペヤング	1勝12敗	0.077

サファイアセクション 第4節・予備節 終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	MORI ALL WAVE KANOYA	10勝3敗	0.769
2位	大和電機工業	9勝4敗	0.692
3位	Citrine Ichinomiya	7勝6敗	0.538
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	7勝6敗	0.538
5位	小泉病院 Blue Arrows	5勝8敗	0.385
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	0勝13敗	0.000

※サファイアセクション3位・4位は同率で並ぶチームの対戦得失点差により決定



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイトで <https://jsl-women.com/>

◎第53回日本男子リーグ第4節◎



3位・平林金属 1位・Honda



4位・トヨタ



2位・ダイワアクト



5位・日本エコシステム

「上位5チーム」 出揃う!

「第53回日本男子リーグ」のレギュラーシーズン「最終節」となる第4節が、去る10月5日(土)・6日(日)の両日、栃木県大田原市・熊本県水俣市において開催された。

今節は、最終決戦の舞台。決勝トーナメントへの切符(※レギュラーシーズン/リーグ戦上位5チームに決勝トーナメント進出の権利が与えられる)がかかる「勝負・運命の第4節」とあって、各チームそれぞれの戦況のもと、様々な想いを胸に最後の1球・ワンプレーいまで白熱の戦いを展開。2日間の激闘を経て、最終的に1位・Honda(今節4連勝・通算成績14勝2敗)、2位・ダイワアクト(今節3勝1敗・通算成績13勝3敗)、3位・平林金属(今節2勝2敗・通算成績12勝4敗)、4位・トヨタ(今節4連勝・通算成績12勝4敗で平林金属と並んだが、直接対決の勝敗により4位)、5位・日本エコシステム(今節4連勝・通算成績10勝6敗)が決勝トーナメントへ駒を進めることになった。

惜しくも決勝トーナメント行きを逃す形となった6位は、デンソー(今節4連勝・通算成績10勝6敗で日本エコシステムと並んだが、直接対決の勝敗により6位)、続いて7位・ジェイテクト(今節1勝3敗・通算成績9勝7敗)、8位・旭化成(今節2勝2敗・

通算成績9勝7敗でジェイテクトと並んだが、直接対決の勝敗により8位)、9位・三重ヴェルデウイン(今節3勝1敗・通算成績8勝8敗)、10位・高知パシフィックウェーブ(今節4連敗・通算成績8勝8敗まで成績を落とし、三重ヴェルデウインにも勝率で並ばれ、直接対決の勝敗により10位)、11位・埼玉県庁クラブ(今節2勝2敗・通算成績7勝9敗)、12位・大阪桃次郎(今節4連敗・通算成績7勝9敗まで順位を落とし、埼玉県庁クラブにも勝率で並ばれ、直接対決の勝敗により12位)、13位・豊田自動織機(今節3勝1敗・通算成績6勝10敗)、14位・大阪・堺グローバル(今節4連敗・通算成績4勝12敗)、15位・山口水産(今節4連敗・通算成績4勝12敗、大阪・堺グローバルとの直接対決の勝敗により15位)、16位・愛媛ウエスト(今節1勝3敗・通算成績3勝13敗)、17位・熊本嶋田クラブ(今節4連敗・通算成績0勝16敗)といったレギュラーシーズンの最終成績になった。

前節(第3節)終了時点で通算10勝2敗、平林金属、ダイワアクトと同率首位に並んでいたHondaは「地元・栃木県」大田原市/美原公園第2球場・野球場 黒羽運動公園多目的広場において開催された栃木大会に登場。

初日・初戦のジェイテクト戦を「キヤプテン」坂田大士の先制タイムリー、遠畑光希のリードを広げるタイムリースリーベース、福田空脩のダメ押しソロホームランで5-3とモノにすると、続く高知パシフィックウェーブ戦は「現・男子TOP日本代表」の先発・長井風雅が立ち上がりからエンジン全開!闘志剥き出しのピッチングを展開し、相手打線を「無安打・18三振」に抑え込む熱投!!0-0のまま迎えた土壇場の7回裏、「選手兼任監督」浦本大嗣が「値千金」のサヨナラホームランを突き刺し、1-0で勝利を飾り、幸先良く連勝スタートを切った。

「勢い」に乗ったHondaは2日目のダブルヘッダーも池田空生、長井風雅の「現・男子TOP日本代表二枚看板」を軸に投打が噛み合い、愛媛ウエストに6-0、大阪・堺グローバルにも5-0と2試合連続の完封勝ち(前日から含めると3試合連続の完封勝利)。この最終節「無傷の4連勝」で通算成績を14勝2敗まで伸ばし、「レギュラーシーズン1位」での決勝トーナメント進出を決めた。

前節を終えて通算8勝4敗、トヨタと、3チーム並びの4位につけていた高知パシフィックウェーブ、ジェイテクトは「大事な最終節」で4連敗、1勝3敗と結果を残せず……。



高知パシフィックウェーブはこの最終節「まさか…」の4連敗

高知パシフィックウェーブは初日・初戦の埼玉県庁クラブ戦で1-2といきなり躓き、続く地元・Hondaとの「勝負をかけた一戦」も打線がノーヒット・ノーランを喫してしまう等……。「痛い連敗」スタート。2日目もこの「嫌な流れ」を引きずったまま、三重ヴェルデウインに2-3、日本エコシステムにも5-8で競り負け、今節「まさかの4連敗……」で決勝トーナメント進出を逃す形に終わった。



ジェイテクトも1勝3敗と負け越し、悔しい7位に終わった

ジェイテクトも今節「肝心の初戦」で埼玉県庁クラブに1ー2と惜敗。続くHonda戦も終始試合のペースを握られてしまい、3ー5で落とすと、2日目も「絶対に負けられない日本エコシステム戦」に5ー7で打ち負け：「痛すぎる3連敗」。最後三重ヴェルデウィンとの対戦は「意地」で勝利（試合スコアは6ー5）を収めはしたものの、念願の決勝トーナメント進出には手が届かず。トータル9勝7敗と例年以上の奮闘を見せてくれたが、もっともっと上をめざして！今シーズンの「収穫・課題」をしっかりと見つめ直し、チームのさらなる成長へつなげてもらいたい。



日本エコシステムが5位をつかみ、最終決戦へ

また、栃木大会では前節終了時通算6勝6敗の、同率9位に位置していた日本エコシステムが「4連勝」と猛チャージをかけ、決勝トーナメント進出「最後の枠」となる「5位の座」を奪取！
今節4試合、大阪・堺グローバル戦に7ー2、愛媛ウエスト戦に6ー5、ジェイテクト戦に7ー5、高知パシフィックウェーブ戦に8ー5と「計28得点」を奪う「打線の力」で通算成績を10勝6敗まで伸ばし、熊本大会と同じく、4連勝を飾ったデンソーと勝率で並ぶ形になったが、直接対決で日本エコシステムが3ー1と勝利していたため、リーグ規程により日本エコシステムの順位が上になることが決定。土壇場での「ジャンプアップ！」で「最終決戦への切符」を手に入れた。

熊本県水俣市／エコパーク水俣特設ソフトボール場において開催された熊本大会には、首位争い・上位争いの渦中にある平林金属、ダイワアクト、トヨタが登場。
第3節終了時点で通算10勝2敗の平林金属は、初日まず大阪桃次郎を10ー2と圧倒した後、旭化成に1ー5で敗戦。2日目もダイワアクトに0ー1で敗れながら、熊本嶋田クラブには14ー7と打ち勝ち、この最終節「2勝2敗」。最終的には「通算12勝4敗」の成績で「レギュラーシーズン3位」となり、決勝トーナメントの舞台へ。
同じく通算10勝2敗で今節の戦いに臨んだダイワアクトは、切り札の「世界ナンバーワンサウスポー」ジャック・ベスグローブが相変わらず「奪三振ショー」を披露。豊田自動織機戦で「被安打1・16奪三振」（試合スコア1ー0で勝利）、山口水産戦で「被安打4・14奪三振」（試合スコア6ー0で勝利）、トヨタ戦は登板を回避しチームも4ー12で敗れる形になったが、最終戦・平林金属との対戦でも「被安打2・15奪三振」（試合スコア1ー0で勝利）と「世界トップレベル」「ホンモノの実力」をリアルに見せつけ、最終節3勝1敗と勝ち越し。通算13勝3敗「レギュラーシーズン2位」での決勝トーナメント進出を決めた。

高知パシフィックウェーブ、ジェイテクトと同じ通算8勝4敗・4位で最終節に挑んだトヨタは、初日・初戦の熊本嶋田クラブ戦に4本のホームランを浴びせる「一発攻勢」で9ー1と圧倒。続く山口水産戦は1ー1のまま延長タイブレークにもつれ込む緊迫の展開となったが、迎えた延長8回表、西森亜夕夢、真崎海斗のタイムリーで大きな2点を奪い、最終的に3ー2で勝利。2日目も「ベスグローブ抜き」のダイワアクト投手陣を3本塁打・11安打と打ち込んで12ー4、大阪桃次郎にも二桁11安打を浴びせて8ー3と快勝し、「負けなしの4連勝」！最終成績12勝4敗、平林金属と並んで順位決定は互いの「直接対決の勝敗」へ委ねられることになり、平林金属に5ー8で敗れていたトヨタは「レギュラーシーズン4位」で決勝トーナメントに進むこととなった。
「第53回日本男子リーグ」レギュラーシーズンの全チームの勝敗・順位は次の通り。今号が発行される頃丁度「最終決戦」決勝トーナメントを迎えることになるが、その決勝トーナメントの舞台で「上位5チーム」がシーズンの締めくくりに対応しい「記憶に残る激闘」を繰り広げ、たくさんの方のソフトボールファンを魅了してくれることを期待したい！

◎第4節終了時点 全チーム勝敗・順位

1位	Honda	14勝2敗
2位	ダイワアクト	13勝3敗
3位	平林金属	12勝4敗
4位	トヨタ	12勝4敗
5位	日本エコシステム	10勝6敗
6位	デンソー	10勝6敗
7位	ジェイテクト	9勝7敗
8位	旭化成	9勝7敗
9位	三重ヴェルデウィン	8勝8敗
10位	高知パシフィックウェーブ	8勝8敗
11位	埼玉県庁クラブ	7勝9敗
12位	大阪桃次郎	7勝9敗
13位	豊田自動織機	6勝10敗
14位	大阪・堺グローバル	4勝12敗
15位	山口水産	4勝12敗
16位	愛媛ウエスト	3勝13敗
17位	熊本嶋田クラブ	0勝16敗

※上位5チームが決勝トーナメントに進出



◆栃木大会◆

【大会第1日（10月5日）試合結果】

日本エコシステム 7-2 大阪・堺グローバル
 三重ヴェルデウィン 4-1 愛媛ウエスト
 埼玉県庁クラブ 2-1 ジェイテクト
 日本エコシステム 6-5 愛媛ウエスト
 三重ヴェルデウィン 5-3 大阪・堺グローバル
 Honda 5-3 ジェイテクト
 埼玉県庁クラブ 2-1 高知パシフィックウェーブ
 Honda 1-0 高知パシフィックウェーブ

【大会第2日（10月6日）試合結果】

愛媛ウエスト 7-5 埼玉県庁クラブ
 日本エコシステム 7-5 ジェイテクト
 三重ヴェルデウィン 3-2 高知パシフィックウェーブ
 Honda 6-0 愛媛ウエスト
 大阪・堺グローバル 5-2 埼玉県庁クラブ
 ジェイテクト 6-5 三重ヴェルデウィン
 Honda 5-0 大阪・堺グローバル
 日本エコシステム 8-5 高知パシフィックウェーブ

◆熊本大会◆

【大会第1日（10月5日）試合結果】

トヨタ 9-1 熊本嶋田クラブ
 平林金属 10-2 大阪桃次郎
 ダイワアクト 1-0 豊田自動織機
 デンソー 6-3 大阪桃次郎
 旭化成 5-1 平林金属
 ダイワアクト 6-0 山口水産
 デンソー 6-0 熊本嶋田クラブ
 豊田自動織機 4-2 旭化成
 トヨタ 3-2 山口水産

【大会第2日（10月6日）試合結果】

デンソー 4-2 旭化成
 トヨタ 12-4 ダイワアクト
 豊田自動織機 11-2 熊本嶋田クラブ
 デンソー 8-1 山口水産
 ダイワアクト 1-0 平林金属
 トヨタ 8-3 大阪桃次郎
 豊田自動織機 8-7 山口水産
 平林金属 14-7 熊本嶋田クラブ
 旭化成 5-3 大阪桃次郎

第4節の動画・フォトギャラリー等は
JSAオフィシャルサイトで!
www.softball.or.jp

シーズン大詰め！ クライマックス！！



それぞれの場所でそれぞれの想いを胸に

3月に始まった「ソフトボールシーズン」もいよいよ大詰め、クライマックスを迎えつつある。

多くの大会で「日本一」が決まり、全日本総合男子選手権大会では「天皇盃」、全日本総合女子選手権大会では「皇后盃」を、優勝チームが手にすることになる等、それぞれの場所で、それぞれの「想い」を胸に、熱い戦いが繰り返された。

選手・チームはグラウンド上では「全カブレイ」を、審判員は「公正・公平」なジャッジが日本全国どの大会でも同じように行われるように、記録員はグラウンド上で起こるすべてのプレイを「正確かつ迅速」に、スコアカードに記していこうと、自らの「誇り」「プライド」をかけ、全身全霊を傾けていた。それだけではない。ファウルボールを追いかける者。泥にまみれ、雨で濡れたボールを拭き、少しでも投げやすいように、プレイしやすいようにと心を砕く者。天候に振り回され、空を見上げながらグラウンド整備に奔走する者。場内アナウンス、放送で試合を円滑に進め、盛り上げようと苦心する者。スタンドに駆けつけ、選手たちに熱い声援と心からの拍手を送る者。そのすべてがあって、ソフトボールが成り立っている。今年だけでなく、それを来年に、またその次に、つなげて行こう！

全日本大会



日本男子リーグ・女子リーグ JD.リーグ



令和6年度第7回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いに行える状態となっていることを確認。理事25名中出席18名（欠席7名）、監事出席2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

●審議事項

第1号議案

令和7年度全日本大会日程（案）

瀬戸山常務理事・総務委員長より「令和7年度全日本大会日程（案）」が提案された。

教員大会の開催地については北信越ブロックで調整中であり、決定次第理事會に報告することが説明された。

また、各会場地についても行政との調整結果で今後変更となる可能性があることが説明され、了承された。

併せて「男子ワールドカップファイナルステージ」との日程重複と開催地の都合もあり、クラブ男子選手権、天

皇盃全日本総合男子選手権、国民スポーツ大会と大きな大会が3週連続での開催となってしまうことが報告・説明され、理解が求められた。

以上の説明の後、審議が行われ、審議の結果、「第1号議案」は原案通り承認された。

また、これに付随し、都道府県対抗全日本中学生男女大会について、引率の先生が4月1日から新年度となるため、年度末での開催は極力避けていただき、男女とも前倒しできないかとの意見が出され、開催地と調整を行うことが確認・了承された。

第2号議案

令和7年度日本リーグ日程（案）

西常務理事・リーグ委員長から「令和7年度日本リーグ日程（案）」が提案された。

男子リーグについて対戦組み合わせの都合もあり、来年度も今年同様、各節2会場・3球場での開催とすることが説明された。

女子リーグについても今年度と同様の開催とし、男子リーグは会場の確保等、施設面での対応、準備・運営が大

変ではあるが、何とか協力をお願いしたいとの要請があり、審議の結果、「第2号議案」は原案通り承認された。

第3号議案

第33回実年大会

代替大会について

瀬戸山常務理事より「第33回実年大会」について、昨年の沖縄県開催（台風で中止、代替大会を後日高知県で開催）に引き続き、今年の大分県開催も台風接近で中止となったが、12月に福岡県北九州市で代替大会を開催したいとの提案がなされた。

事前アンケート調査の結果、出場48

チーム中40チームから代替大会への参加希望があった。組合せは当初予定通りとし、不参加の8チームは棄権の扱いとはせず翌年のベナルティはなし。

大会委託金は大分県に支払い、北九州は大会参加費とその他収入で賄う。大分県で発生見込みの赤字分約32万円については日本協会が補填する。また、大会プログラム、ボール、ロジン、消耗品は流用し、極力経費を掛けずに大会を開催することが確認・了承され、

期日…令和6年9月29日（日）

13:00～13:50

場所…東京都新宿区/Japan

Sport Olympic Square

及びびインターネット会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…18名

欠席理事…7名

出席監事…2名

欠席監事…1名

議長…会長 牧島かれん

審議の結果、「第3号議案」は原案通り承認された。

第4号議案

女子TOP日本代表チーム

ヘッドコーチの選考手順について

岡本専務理事より、ヘッドコーチ選考要項（案）、公募申出書（案）、個人調書（案）ならびに推薦書（案）について説明・提案され、本理事会承認を経て、10月1日から公募を開始し、10月末に書類選考、11月上旬にプレゼンを実施。11月24日の「第8回理事会」で最終承認となる流れが説明された。

候補者は10名以上の推薦人を集める必要があり、推薦人の条件はJ.D.リーグ3年以上の監督経験者、日本代表

ヘッドコーチまたはアシスタントコーチ経験者、日本代表選手経験者（令和6年度登録選手は除く）のいずれかとなる。推薦人は複数の被推薦者を重複推薦することはできない。

以上が説明され、審議の結果、「第4号議案」は原案通り承認された。

第5号議案

テクニカルコミッショナー

（TC）部会の設置について

岡本専務理事より、テクニカルコミッショナー（TC）部会設置について提案された。

アジア大会、ワールドカップ含む世界大会はTCが全体のコントロールを行うが、日本は現在4名のみで今後養成をしていく必要があることから「TC部会」を国際本部内に設置し、宇津木副会長をトップに、すでに「東京2020オリンピック」で実際にTCとして大会に関わった経験を有する栗山利宏氏等とともに養成をお願いすることが説明され、審議の結果、「第5号議案」は原案通り承認された。

第6号議案

今後の事務局体制について

牧島会長並びに岡本専務理事より、

今後の事務局体制について、次のような説明があった。

冒頭、牧島会長より、先月の理事会において法人格をもったJSA（公益財団法人日本ソフトボール協会）として、事務局長不在は避けるべきとの見解が示されたが、矢端事務局長については「新たな役職」（ハイパフォーマンステレクター）が課せられていることから、本来は早急に後任の事務局長を選任すべきところだが、現行では事務局長としての決裁権と事務局員の労務管理等を委託し、対応してもらっている状態であることが説明された。

新たな事務局長採用をできるだけ早く……との思いはあるが、定款第10章2項に「事務局長及び重要な職員は理事会の決議を得て会長が任命する」とあり、人事委員会及び常務理事会をもってまずは候補者を選任し、最終的には理事会で承認の上、会長が任命するという流れになっていることから、「選考委員会」を設けて次の理事会に向けて選考を行うことが改めて提案され、その間は引き続き矢端氏に継続して事務局長をお願いすることが提案された。

「選考委員会」の人選については、前会長でもある三宅名誉会長のお力をお借りし、選考委員会・委員長をお願いし、選考委員として牧島会長、宇津

木妙子副会長、伊東副会長、宇津木麗華副会長にも入っていただき、専門的知見をお持ちの有識者として弁護士である清水理事を加えて「選考委員会」を構成・設置。後任の事務局長を選定していくことが説明された。

急ぎこの選考委員会で、事務局長とどのような役割を果たすべきかを明示し、それにより「ジョブディスクリプション」と言われる業務内容をしっかりとした上で、どのような処遇・待遇かも示した上で、選考を行うことが客観性の高いプロセスになると判断。常務理事会が人事委員会の役割も果たすことは前回の常務理事会でも説明したが、理事会においても人事について一定の責任を負うことになることが改めて説明された。

その上で、定款の定めに沿い、来月の常務理事会ではまずは三宅名誉会長より「選考委員会」としての報告を受け、その後、理事会でも同様の報告をもって「事務局長の任務とはどのようなものか」を理事会で確認した後に、スピード感を持って具体的な選考に入ることになることが説明された。

従って来月の理事会においても後任の事務局長を具体的に選定・選任することは現実的・物理的に困難と思われる。「事務局長とはどういう業務であるか」の確認が来月、実際の選定にあつ

もうひと月、11月の理事会までかかるという共通認識・共通理解を持つていただきたい、との話があった。

その間は事務局長不在というわけにはいかないで、新しい事務局長が決まるまで現行通り矢端事務局長がその業務に当たることになる。

この案件に付随し、事務局員の業務内容の評価シート等を使つてのヒヤリングを行つていく必要がある。早急にその体制を整えること、それぞれの事務局員の頑張りが報われるような評価の基準や課題克服のための業務明確化、事務局組織としてのチームビルディング等についても整備を進め、特定の事務局員だけに業務負担が集中することのないよう業務分担・役割分担の在り方等含めて選考委員会の中の議題としてほしいとの意見が出された。

これらの説明・審議を受け、次回10月28日の「第6回常務理事会」までに事務局長の任務説明等を書面で作成。その書面に従い、11月18日の「第7回常務理事会」までに「選考委員会」で新事務局長候補を絞り込み、「第7回常務理事会」に提案する、という流れとなることが確認・了承された。

・その他

2025年女子U15アジアカップへの参加について

岡本専務理事より、WBSC（世界野球ソフトボール連盟）が来年イタリアで「女子U15ワールドカップ」を開催することが急遽決定したと報告され、これを受けて「ソフトボールアジア」（アジア連盟）から来年3月に台湾で「女子U15アジアカップ」の開催が決定したことが説明され、日本がこの大会に出場するかしないか、判断が求められた。来年3月の大会であり、今年度決算となるが、元々予算を取っておらず、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）の次世代アスリート予算は補正予算を組んでもその対象とはならないと考えられ、費用はすべて日本協会負担となることが想定されるが、「是非とも出場したいと考えている」と、岡本専務理事から大会参加への強い意向・意欲が示された。

この案件に関連し、選手強化本部から「男子ワールドカップファイナルステージ及び女子U18ファイナルステージについては協議・対応を進めており、次の18日の常務理事会で提案できると思うが、今、話のあった女子U15アジアカップに関しては選考会を年内に実施する必要性が生じてくる。来週早々に強化委員会をWebで開催するが、18日の承認では間に合わないもので、この場をお借りして、募集の準備や選考会の実施内容・場所等進めさせていただくこと、選考会実施や大会参加の予算については事務局にお願いし、実施する前提で準備を進めさせていただくことをご承認願いたい」と、今後の対応について強化本部の意向が示された。

併せて、「ソフトボールアジア」（アジア連盟）から来年3月の女子U15アジアカップに加え、来年度にU23男子女子TOPのどちらかのアジアカップを日本で開催できないか打診が来ていることが報告・説明された。

回答期限はこの理事会の翌日となっており、非常に厳しい予算の中であるが、現時点で「開催できない」と断ってしまうのではなく、「検討中」と回答し、47都道府県に開催希望があるかアンケート調査を行うことが事務局から提案され、女子U15アジアカップについては「参加」の方向で具体案を検討、男子U23、女子TOPのアジアカップ日本開催については「検討中」と回答し、47都道府県に開催可否のアンケートを行うことが承認された。

●報告事項

1. 日米対抗ソフトボール2024報告

岡本専務理事より「日米対抗ソフトボール2024」の実施報告並びに暫定決算報告が行われた。

収支は1千249万4117円の赤字であるが、日本協会負担額は読売と折半後の631万8559円となり、今年度予算計上した300万を充当し、別途協賛いただいた280万を差し引いた51万8559円が実質赤字額となることが説明された。

来年度以降もこの大会を継続し、開催していくのであれば、早めに準備し、できれば年内中に実施の有無を含めて来年度の計画をスタートしなければ準備期間としては厳しいこと、今年の反省を生かして来年は夏休み期間に開催できるようにスケジュールを調整する必要があることが説明された。

2. WBSC第18回男子ワールドカップ・グループステージ報告

岡本専務理事から、「WBSC第18回男子ワールドカップ・グループステージ」グループCを2位で突破したことが報告された。



「ファイナルステージ」出場権は獲得したが……課題も残った男子TOP 日本代表

第1代表決定戦ではアメリカに4回コールド負け（0-10で敗戦）。投手の球速は140km超、打者のパワーも含めて力の差が感じられ、日本代表が初の世界一を獲得するには、「国際経験」とパワーが必要と分析。来年ファイナルステージが開催されることになり、出場国を見ると強豪国ばかりであり、今後の強化へ向け、理事会の理解・協力が求められた。

事務局だより

世界のトップをめざす 決意・覚悟を新たに！

去る10月8日（火）、「令和6年度国際競技大会優秀者等に対する文部科学大臣顕彰表彰式」が行われ、昨年度の国際大会で優秀な成績を収めた選手・チームが表彰された。



2023年女子TOP、男子U18日本代表が表彰を受けた

この表彰は、世界的規模のスポーツの競技会において特に優秀な成績を収めた者等に対して文部科学大臣が表彰を行い、その榮譽を讃えることを目的として行われるもの。

（公財）日本ソフトボール協会からは「第19回アジア競技大会」（2023年9月26日～10月2日／中国・杭州）に出場し、「全勝」で優勝を飾り、6大会連続の金メダル獲得を果たした女子TOP日本代表チーム、「第14回男子U18ワールドカップ」（2023年11月11日～19日／メキシコ・エルモシージョ）でホスト国・メキシコとの延長タイブレークにもつれ込む激闘を制し、大会「連覇」を達成した男子U18日本代表チームが表彰の対象となり、日本ソフトボール協会を代表して、男子U18日本代表・田中徹浩ヘッドコーチが表彰式に出席した。



男子U18日本代表・田中徹浩ヘッドコーチが日本ソフトボール協会を代表して、式に出席

男女で世界のトップを争う国際競技力を誇る日本のソフトボール。この喜びを分かち合うと同時に、女子は「L A28」での3大会連続のオリンピック金メダル、男子は悲願の「ワールドカップ優勝」をめざし、TOPカテゴリー、ジュニアカテゴリーすべてのカテゴリーで「世界一」をめざす「決意」と「覚悟」を新たにしたい。



「第19回アジア競技大会」で6大会連続の金メダル獲得を果たした女子TOP日本代表



男子U18日本代表は「第14回U18ワールドカップ」で激闘を展開！見事大会連覇！！